

編集後記

『ヴィクトリア朝文化研究』第17号をお届けします。

今号には6本の論文の投稿があり、編集委員による厳正な審査の結果、そのうち1編を掲載することになりました。今回不掲載となった中には、掲載まであと一歩という論文もあり、再度ご投稿いただければ幸いです。また、昨年の大会シンポジウム「移民への錯綜する眼差し——排除と寛容のはざままで」の発表者の方々には、発表内容を論文としてご投稿いただき、査読を経て掲載しました。

2019年はヴィクトリア女王生誕200年にあたります。それにちなんで、新井潤美先生に、現代のヴィクトリア女王表象についてのエッセイをご寄稿いただきました。書評欄では、これまでで最多の21冊を取り上げました。とはいえ、ヴィクトリア朝文化の研究書は次々と刊行されており、残念ながら今回扱えなかった著作も少なくありません。限られた紙幅ですべての書籍を取り上げるわけにはいかない以上、どのような基準で対象図書を選ぶべきか、今後も試行錯誤を続けることになりそうです。

素晴らしいエッセイ・書評をご執筆くださり、誌面の充実にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

次号よりの大きな変更として、投稿論文の締切が従来の6月末から一カ月早い5月末になります。投稿をお考えの方はご注意ください。

最後に、本誌の刊行のためにご尽力いただいた川端康雄会長と山口恵里子副会長、そして献身的に編集委員会の仕事を支えてくださった学会事務局の方々に、篤くお礼申し上げます。

(大久保 譲)